

Paddy and Water Environment の活性化の取り組みと改善方策 Trials for the Improvement of Paddy and Water Environment

中野芳輔*
NAKANO Yoshisuke*

1. はじめに

2003年1月にPWE誌の出版がスタートして6年目を迎えた。これまで掲載された論文数は全部で約160編となり、幹事国の日本、韓国、台湾の他、多数の国から投稿されている。PWEの知名度も漸次高まって来たが、国際誌としてさらに発展させるためにはまだ問題点も残されている。事務局ではPWEの活性化に向けて、ISI(Institute for Scientific Information Inc.)への登録申請、査読システムの改善、宣伝活動等を行ってきた。これらの状況を説明し今後の改善方針についてまとめてみた。

2. ISIへの登録申請

国際誌として認知されるためにはISIへの登録と、Impact Factor(IF)の取得が求められている。とくに韓国や台湾の研究者にはIFの必要性が高く、PWEのISI登録の有無について事務局に問い合わせが来ることもある。PWE事務局では2006年12月に出版元のSpringer社との連携のもとにISIへの申請を行い、現在、判定待ちの状態にある。

ISIにおける科学引用レポートScience Citation Index Expanded(SCI)には、6600のジャーナルが登録されている。年間に評価されるジャーナルは2000点近くであるが、採択されるのは10%~20%程度と言われている。個々のジャーナルは、綿密な評価プロセスを経てから、収録の可否が決定される。ジャーナルの評価では、定性評価から定量評価に至るまで、さまざまな要素が考慮される。ジャーナルの基本的な発行基準、編集の内容、著者の国際性、引用データなど複数の要素を組み合わせることで相互関係を検証することにより、ジャーナルの長所と短所が特定される。

またジャーナルが定められた期日どおりに発行されているかどうかは、評価プロセスにおける最も基本的な評価基準の1つであり、最も重要であるとされる。ISIデータベースに登録する際には、まず、対象となるジャーナルが規定の発行頻度で実際に出版されているかどうかを調べる。定期的な出版期日が厳守されていれば、出版の存続に十分な原稿量がストックされていることがうかがわれる。ジャーナルに記載された発行日より数週間あるいは数ヶ月も遅れて発行されているジャーナルは排除される。予定通りに発行されているかどうか適切に判断するため、通常少なくとも3号について調査が行われるが、申請後2年間は調査期間と考えられる。また、ジャーナルが国際的な編集基準に準拠しているかどうかも考慮される。英文による論文タイトル、抄録、キーワード、すべての著者アドレスの明示は、必ず付与されていなければならない。ピア・レビューの有無も、そのジャーナルの水準を示すとともに、そこに掲載される研究内容の質や引用文献リストの完全性が目安とされる。PWEでは発刊初期には1月の遅れが2度生じたが、申請後はVol.4,No.4(2006年12月)からVol.6,No.2(2008年6月)までの計7誌については定期刊行を行って来た。次号のVol.6,No.3(2008年9月)には十分な原稿ストックがあり、申請後2年間の定期刊行は達成できることになる。

ジャーナル選定プロセスで使われる引用データには、総被引用数(citation rate)、文献引用影

* 九州大学名誉教授 Emeritus Professor, Kyushu University

響率 (impact factor:IF)、最新文献指数 (immediacy index) が考慮される。IFは当該雑誌の、過去2年間に発表された論文が、その年の1年間に発行 (かつSCI で採録) されたすべての雑誌に引用された総件数を、当該雑誌の過去2年間に発表された論文の総件数で割った値である。自誌引用率 (Self citation rate) も考慮される。自誌引用率は、自誌を含めた全ジャーナルからの被引用数に対する、そのジャーナル自身からの引用の割合である。自誌引用率が高ければその分野は狭いか、他から孤立しているかもしれないとみられる。また、学際的なジャーナルは自誌引用率が低い傾向がある。各分野によって自誌引用率の平均は異なるが、平均値から大きく逸脱していれば、IF値を上げるために過剰な自誌引用が行われていないか、分野の状況から考えて高い自誌引用率が普通であるかどうかなどが評価対象となる。レビューは高いIF値を示す傾向があるとされている。PWEにおけるレビュー論文の掲載はIF値のアップに向けて効果的と言える。今後Editorial Panelメンバーや日本PWE委員会の協力をいただき、レビュー論文の著者を開拓したい。また、農業農村工学会員の皆様には、ISIに登録されている雑誌、「Agricultural Water Management, Hydrological Processes, Plant and Soil, Irrigation and Drainage, Irrigation Science, Soil Science Society of American Journal, Journal of Hydrology, Journal of Irrigation and Drainage Engineering(ASCE), Soil Science, Transaction of the AEAE」等に投稿される場合は、PWE誌に掲載された論文を積極的に引用することもお願いしたい。

3 . 査読システムの改善

現在、PWE事務局は韓国にあり、投稿原稿の窓口となっている。2009年からは事務局は台湾に移行する予定である。こうした国際的な連携の中で査読を円滑に進めて行くことが求められている。これまで、査読の遅れを回避する手段としてOn-line査読システムの導入について、購読者の方々からご助言をいただいていたが、このたびSpringer社が提供するEditorial Manager という査読システムを導入することとした。今後、投稿者には <https://www.editorialmanager.com/pawe> に接続し、online submission で入力をお願いすることになる。利点として、査読のやりとりが容易になり時間が短縮される、Editor-in-ChiefやManaging Editorが論文の状況を逐次把握できる、年間の投稿数、投稿待ち原稿数などの統計データが提供される、査読時間などの改善が図られ投稿数が増える、などが期待できる。

4 . 宣伝活動

事務局では国際会議の開催に合わせてPWE冊子の配布を行ってきた。これまで、国際水田農業学会 (イタリア)、世界水フォーラム (メキシコ)、国際米会議 (イタリア)、ICID (クアラルンプール) などで冊子を配布してきた。また最近では、Water Management Congress EuropeからPWEとの相互宣伝についての協力依頼があった。話し合いの結果、Springer社が提供するPWEのサイトから同会議へのlinkを可能にする代わりに、同会議が6月にプラハで開催される際にPAWEESのロゴが掲載されることになった。こうした活動の成果は不明であるが、PWEの知名度の向上に役立っているものと期待したい。